

広島県公立高校入試選抜 II 分析速報(国語)

□問題・設問構成

見た目の4大問構成は変わらず。ただし、配点のバランスに変化。

大問1が小説、大問2が説明文、大問3に古典、大問4に資料読み取りからの作文。昨年と変わらない構成となりました。ただし、漢字の問題が減り、大問4に配点が振られたため、配点のバランスが変化しました。

□昨年度との難易度比較

難易度は上昇。徐々に得点が取りにくいテストに。

漢字の問題が減ったことに加え、採用された題材の難しさと「生徒との会話」などという形式の変化があり、難易度は昨年より上昇。さらに、問題形式の変更による“受験生の混乱”で平均点が下がり、昨年の平均点28.8点よりもさらに平均点が下がるでしょう。

『広島県の国語は簡単である』という定説は、完全に覆されたと言っていいでしょう。

□平成29年度入試に向けて“今すぐ行う”対策

絶対押さえるのは漢字と歴史的仮名遣い

平成29年度入試に向けて、今すぐに始めてもらいたい対策は「漢字」と「歴史的仮名遣い」の2つです。

配点こそ小さくなったものの、広島県入試の漢字と歴史的仮名遣いは正直言って簡単です。ですから、ここで得点を落とすことはそのまま合格を遠ざける結果になりかねません。

簡単な漢字・仮名遣いで構いません。まずは3月、きっちり確認です。

広島県公立高校入試選抜 II 分析速報(社会)

□問題・設問構成

4大問構成は変わらず。資料を読み取るタイプの問題が増加。

大問1が地理の問題、大問2が歴史の問題、大問3に公民の問題、大問4に総合問題の4題構成と、こちらも昨年とほとんど変わらない問題構成になりました。グラフや資料が多く登場し、これを読み解いて解答する“パッと見では社会らしくない”記述問題が多く存在していました。

□昨年度との難易度比較

問題は昨年とほぼ同等の難易度。

昨年に引き続き、記述式の問題が多く存在しますから難易度は変わらないと踏んでいいでしょう。ただし、形式自体に大きな変更がないため、しっかり対策ができている受験生には面食らうことはないでしょうから、平均点は自体は多少の上昇が見込まれます。昨年の25.7点から1~2点のプラスと見るのが妥当かと思います。

□平成29年度入試に向けて“今すぐ行う”対策

簡単な記述問題は今すぐ書けるような練習を

最近、社会の問題は「単純な用語暗記」では得点が取れないようになっていきます。もちろん、用語の暗記はすべての基本ですので、引き続いてやっておかなければなりません。それ以上に大切なのは「単純な記述問題」を得点していくこと。

「記述問題」とクローズアップすると、難しいように感じるかもしれませんが、実は本当に難しいのは資料を読み取りながら説明していく問題です。記述問題には、ただ覚えれば解けるタイプの問題もあるのです。ですから、そのような問題を拾いながら練習することをオススメします。

広島県公立高校入試選抜Ⅱ 分析速報(数学)

□問題・設問構成

大問構成から大幅に変更。計算問題が減って記述問題が増える。

大問 1 が計算、大問 2・3 に小問集合が入りました。大問 4 が選択問題と説明問題が入る「昔の大問 2」のような形式になり、さらに初めて「グラフを作図」する問題が導入されました。大問 5 が図形の活用系の問題が入り、大問 6 が関数の活用系問題、大問 7 に関数のグラフ応用問題、大問 8 に図形の証明問題が出題されました。大幅な変更で面食らうとともに、計算問題が 4 問となり、計算で「稼ぐ」と決めていた受験生にはかなり苦しい問題になったかと思います。

□昨年度との難易度比較

難易度は昨年よりも上がり、平均点は下がるか。

形式変更によって、いわゆる「確実に解答する問題」が減り、大問 4 以降の問題の難易度がかなり高くなりました。また、形式が変わったという心理的な作用も働き、平均点は昨年の 30.1 点を大幅に下回ることになりそうです。

□平成 29 年度入試に向けて“今すぐ行う”対策

それでも基礎から積み上げるべき！

計算問題が減ったり、記述・活用系の問題が増えたりと、大きな形式変更があった数学ですが、それでも基本的な部分から積み上げなければなりません。問題が難しくなればなるほど、基本的な問題をいかに落とさずに応用問題を拾えるかがカギを握ります。今のうちに、「基本問題に絶対に足をすくわれないこと」をテーマに、計算や小問をこなしていく必要があります。